

古川橋駅南広場等再編プロジェクト基本計画 | 駅南広場編 ~概要版~

01 現況及び課題とポテンシャルの整理

京阪古川橋駅の南広場（市道末広東西1号線のうち市道古川橋駅桑才線との接続部分の約6,100㎡）を計画範囲とする。

課題

- ・歩行者・自転車の通行量が多く、動線が輻射しており歩行者が安心して通行しづらい状況が散見される
- ・ロータリーは自動車の長時間の停車、禁止されている駐車行為などが散見される
- ・ケヤキ並木等は、ムクドリによる鳥害が発生し対策として実施された強剪定により樹勢が衰退し、根上りによる舗装の持ち上がりも生じている
- ・歩行者の東西の往来動線が限られているため、車道で乱横断が発生している
- ・広場の大部分が交通空間で、人の滞留空間等がほとんど存在しない

機会とポテンシャル

- ・駅北側での旧第一中学校跡地活用事業（KADOMADO やタワマンの建設等）により、周辺住民や来街者の増加が見込まれる
- ・多様な樹種の植栽と豊かな緑量があり、市内でも希少なみどりに富んだ空間で古川橋駅南側のまちなかの顔となっている
- ・交通の結節点となっているため、歩行者・自転車の通行量が多い



02 社会実験と交通量調査

1 | 社会実験

■社会実験時レイアウト図：西側ロータリーを閉鎖し、人のための空間として滞留空間を設置



《効果検証結果》

- 居心地のよさが評価され、安全で快適に長く過ごせるひろばが期待されている
- ロータリーを1つに集約しても、交通上の課題は生じなかった
- 通行止め、代替ルートの対面通行化による交通上の課題は生じなかった

2 | 交通量調査・社会実験

ロータリーの安全性向上に向けた交通規制の変更に向けた調査

右図の交通規制に問題が生じないか交通量調査・社会実験の結果を踏まえて検討
 ▶整備後は市道古川橋1号線の該当区間の規制を解除、市道末広東西1号線の該当区間の自動車通行を禁止する方向性で関係先と協議を進める

ロータリーにおける区分別の必要な停車区画数の調査

交通量調査・ロータリー機能を1つに集約した社会実験の結果を踏まえて検討
 ▶バス：乗車・降車の合計2バース ▶タクシー：乗車1台分と待機2台分
 ▶一般車：今後の社会情勢の変化等を踏まえながら、必要台数の確保に努める

【将来の規制イメージ】



03 整備コンセプト

まちなかの“PLAY”が始まる場所

～まちなかに集い楽しむ場～

PLAYFUL (遊び心のある) なまちを目指し、当初計画時の「まちなかの玄関口として古川橋駅前に降り立った人々が、空の青さ、風のそよぎ、まちなかの佇まいをゆったりと味わうことができ、人々に潤いや安らぎや充足感を与える」といった考え方を継承しながら、居心地がよく滞在性の高い人のひろばを導入し、活用したくなる古川橋のまちなかの顔を整備する。

04 整備方針と実現に向けた方策

整備方針1 ▶ 歩行者・自転車が安全・安心に過ごせる空間づくり

- 方策① 歩行者が安全に過ごせる空間づくり
- 方策② 自転車が安心して通行できる環境づくり

整備方針2 ▶ 居心地よく滞在性の高い空間づくり

- 方策① 自然と居心地よく過ごせる、多彩な“よりどころ”のある人のひろば空間の導入
- 方策② 広場と民間建物の一体性の向上

整備方針3 ▶ まちなかの顔となる空間・景観形成

- 方策① 市道古川橋駅桑才線のケヤキ並木に続く、緑豊かな空間の継承
- 方策② まちなかの起点となり、顔となる場所にふさわしい、品のある空間づくり

整備方針4 ▶ 使いたくなるひろば（道路）空間づくり

- 方策① ニーズに対応し柔軟に活用できるひろば（道路）空間の形成
- 方策② 使いやすいひろば（道路）空間づくり

05 整備計画と活用イメージ

歩道は自転車通行可（人のひろば除く）

混雑時は、自転車を押して歩くことを促しつつ安全性を確保する

周囲の建物への視認性の確保

中・低木を中心とし、広場に面する建物への視認性を確保

並木道からの緑の連続性の確保

いこいのひろば
 景観に調和した舗装等



パーゴラリング
 テラス席設置、小規模イベント開催



06 整備スケジュール

令和5年5月に「古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル推進基本構想」を策定。同構想に基づき、令和6年11月に社会実験「PLAY FURUKAWABASHI Vol.2」を実施した。その結果を受け、本編をとりまとめた。今後は、エリアのステークホルダーとも連携し、地域ニーズ等を確認しながら、実施設計・工事を旨す。

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降
		社会実験「PLAY FURUKAWABASHI Vol.2」の実施	「古川橋駅南広場等再編PJ基本計画（駅南広場編）」の策定※	エリアのステークホルダーとも連携し、地域ニーズ等を確認しながら、実施設計・工事を旨す
				実施設計・工事（予定）

※古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル推進基本構想に示された4つのプロジェクトと合わせて策定